



弘前の、そして当院ではじめての新型コロナウイルスの経験

(澤田直也)

先月は弘前近郊にお住まいの方にとって、これまで経験したことのない不安な日々であったことと思います。10月12日に弘前で1例目の患者さんが確認され、その後みるみるうちに200人以上の陽性者がでました。小さな田舎町ですからあることないこと噂はどんどん拡がり（美彦が感染したというデマも聞きました）、そして喉元過ぎれば熱さ忘れるで、いつの間にかまた落ち着きを取り戻しつつあります。それでも11月14日現在、まだ34名の方が入院治療されており、医療機関ではまだまだ緊張が続いています。

通院中の皆様にはお手紙でもお知らせしたとおり、当院でも新型コロナウイルス感染の患者さんを入院でみるという経験をしました。幸いなことに患者さんはその後軽快され、職員や同時期に入院されていた患者さん、付き添いの方に感染は確認されませんでした。今回の対応でよかったこと、悪かったこと、反省点いろいろあります。それを記録しておきたいと思います。



■10月18日(日)

近隣の病院の先生から電話があり、当院に前日まで肺炎で入院されていた方のご家族が新型コロナウイルス陽性と診断されたとのことであった。すぐに保健所と患者本人に新型コロナウイルス感染が疑われることを連絡した。

当院で外来や入院で接触があった看護師さん、患者さん、付き添いさんをリストアップした。休日であったため、ひとまず新型コロナウイルスの抗原検査キット（検査精度はPCRに劣るが15分で結果がわかる）を持っていた開業医の先生から10個借り受け、医師2人看護師8人を検査し全員の陰性を確認した。

20時に保健所から患者さんが陽性と判定されたと連絡あり。今後の対応については濃厚接触者を確認し、検査等は医師会を通して行ってくださいとのことであった。翌日来院される患者さんのために入口に張り紙で、検査、診察は中止し基本的に薬処方のみになることを周知した。翌日エ

■10月19日(月)

65歳以上のインフルエンザワクチンの無料接種が開始となる日であったため、予防接種と処方のみを行った。それでも170名の患者さんが来院された。近隣の開業医さん、問屋等から新型コロナウイルス抗原検査キットを合計67個手に入れた。入院期間が重なる患者さん、付き添いさん、外来点滴の患者さ

コーや胃カメラ検査予定の方には電話連絡でキャンセルをお伝えした。職員にも今回の経緯についてまとめて、師長さんから連絡してもらった。

10月25日 東奥日報朝刊

沢田内科医院 診療など制限
感染者が一時入院
弘前市の沢田内科医院で、新型コロナウイルスの感染者1人が11月17日に入院していたため、同医院が18日から外来診療と入院を一部制限していることが24日、分かった。スタッフや他の患者に陽性者はおらず、11月2日から通常診療を再開する。24日までに同院の患者ら約3500人に手紙で通知した。24日までに県が発表した

感染者に含まれる。同医院によると、肺炎症状を訴える男性が11日から17日まで入院。家族に感染が確認されたため18日、検査したところ陽性が判明し、他の医療機関へ入院した。同医院は同日から、外来診療を制限し、一部の入院患者には自宅で待機してもらっている。

濃厚接触者1人を含む職員28人に対し、抗原・PCR検査を実施した結果、全員陰性だった。澤田美彦医師は「スタッフ、患者らの

んを抗原検査キットで調べる方針とした。職員は抗原検査で全員陰性、午後には弘前PCRセンターでPCR検査を行った。

入院時に病歴聴取で15分以上の接

感染は確認されていない。（男性の陽性が判明した）18日から2週間後の11月2日、通常の診療を再開する」と話した。（菊谷賢）

触があった看護師1名は濃厚接触者としてこの日から25日まで自宅待機とした。公立小中学校はこの日から25日まで休校、夕方のニュースで飲食店の31日

までの休業要請、秋祭りの中止が報じられた。国のクラスター対策班が弘前保健所に入った。

■10月20日(火)

職員で体調不良者なし。117名の患者さんが来院された。前日に引き続きインフルエンザの予防接種と、接触者の抗原検査を継続。17名の職員について

健診で胸部X線撮影も行ったが肺炎所見のある職員はいなかった。翌水曜日の検査もキャンセルとした。市の集団健診も25日まで中止と報道あり。鯉ヶ沢町役場でも3人目の陽性患者が出た。

■10月21日(水)

職員で体調不良者なし。この日職員全員のPCR検査陰性が確認された。PCR検査がわかるまでの2日間はかなりドキドキしていたので、ホッとした。

■10月22日(木)

職員全員のPCR陰性について玄関の張り紙を更新した。25日まで診察、検査は中止とし、観察期間の明ける10月26日より検査再開予定とした。ただ弘前市内の感染状況が定まらないため診察は最小限に。特定健診やがん検診の結果は診察に入らず郵送で確認いただき、明らかな異常があればその場で説明する方針とした。

採血結果も次回以降確認、明らかな異常は電話連絡。今回の経緯について4月から10月まで通院中の患者さん約3500名を対象に手紙で郵送することとした。また、職員の関係者(家族の職場、学校や施

■10月23日(金)～10月25日(日)

職員で体調不良者なし。手紙と同内容のお知らせをホームページのトップに掲示した。

10月25日、東奥日報朝刊に当院での新型コロナウイルス感染患者の発生とその対応について記事がでた。

■10月26日(月)～11月1日(日)

特定健診と腹部エコー、胃カメラ検査を再開した。検査室は少し寒いが換気して、患者さんにも予防衣、マスク、手袋を着用し退室時に脱いでもらうこととした。むせたり、咳込んだりするとエアロゾ

■11月2日(月)

通常診療再開。11月4日からPCRセンターを通さなくても当院でPCR検査できる体制を整えた。

■11月12日(木)

夕方のNHKニュースの特集で当院での新型コロナウイルス感染対策の取り組みについて放送された。開業医でも感染対策をして診療していることを知ってもらいたい機会であった。



設、保育園など)に報告するための書面を作成し、職員全員に渡した。緊急の内視鏡も2件あったが、換気しながら予防衣を着用、N95マスクをつけて行った。入院になる患者さんには症状の有無にかかわらず、新型コロナウイルスの抗原検査を行うこととした。



ルが発生するので、無症状の方からの感染を防ぐために行うことにした。検査医、介助者はN95マスク着用。結果は基本的に口頭でお伝えし、正式には郵送で結果確認いただくこととした。

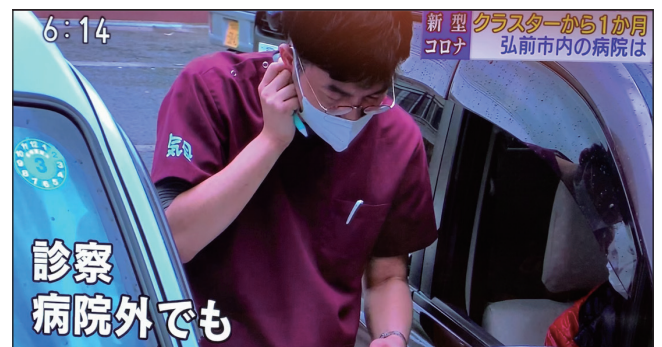


■反省点

・患者さんは10月初旬に肺炎で受診された。おそらく弘前1例目の方と同じくらいの発症時期である。9月の3連休でたくさんの観光客が弘前を訪れており、その頃の弘前公園の様子を思い出すと市民もかなり外に出ていた。その2週間後ということで（あとから考えると）警戒すべき時期であった。正直、自院で弘前1例目をみつけるという気概でみていたわけではなかった。

・そのため新型コロナウイルスの抗原検査キットを常備していなかった。疑いの方は弘前PCRセンターで検査をするつもりだったが、結果がわかるまで早くても2～3日はかかる。できるだけ早めに感染の可能性を調べるため、精度は劣るものの抗原検査キットも必要ことがわかった。

新型コロナウイルスはこれまで経験したことのないタイプの感染症です。他の医療機関とも（失敗を含めて）情報を共有しながら対応していきたいと考えています。



発熱患者さんの駐車場診療の様子

職員自己紹介 館下麻奈美

館下麻奈美です。初めまして！！の方々もこのニュースレターを読んでいると思いますので、まずは、自己紹介から始めます。

私は、昭和49年4月29日に深浦町岩崎村というのどかな村で、元気に生まれのびのび育ちました。小、中、高校は地元の学校を卒業し、高校の時の先生に『看護師さんに向いてるんじゃないか』と言われ、市内の内科に勤めながら弘前市医師会准看護学科へ入学しました。そのまま働きながら高等看護学校へも入学、卒業し無事正看護師の免許を取ってすぐ、沢田内科医院で募集していることを知り、平成11年4月に勤務する事となりました。



ちなみに、3歳離れた兄もいて、兄妹共に現在弘前に住んでいます。兄は、元気な嫁をもらい、

私はとても静かな夫をもらい？（正しくは私がもらわれたのですが、...）二人の娘にも恵まれ、今のところ幸せに暮らしています。

あれから21年、25歳のピチピチガールで来た私も今年で46歳の美魔女(笑)突入！ギックリ腰も五十肩も経験し、一丁前の中年です。年齢を重ねるとともに、これからいろいろな病気にかかるかもしれません。実際に元気だった義父は心筋梗塞、実父は脳出血になりました。自分自身にもいつ、何が起こるか分かりません。

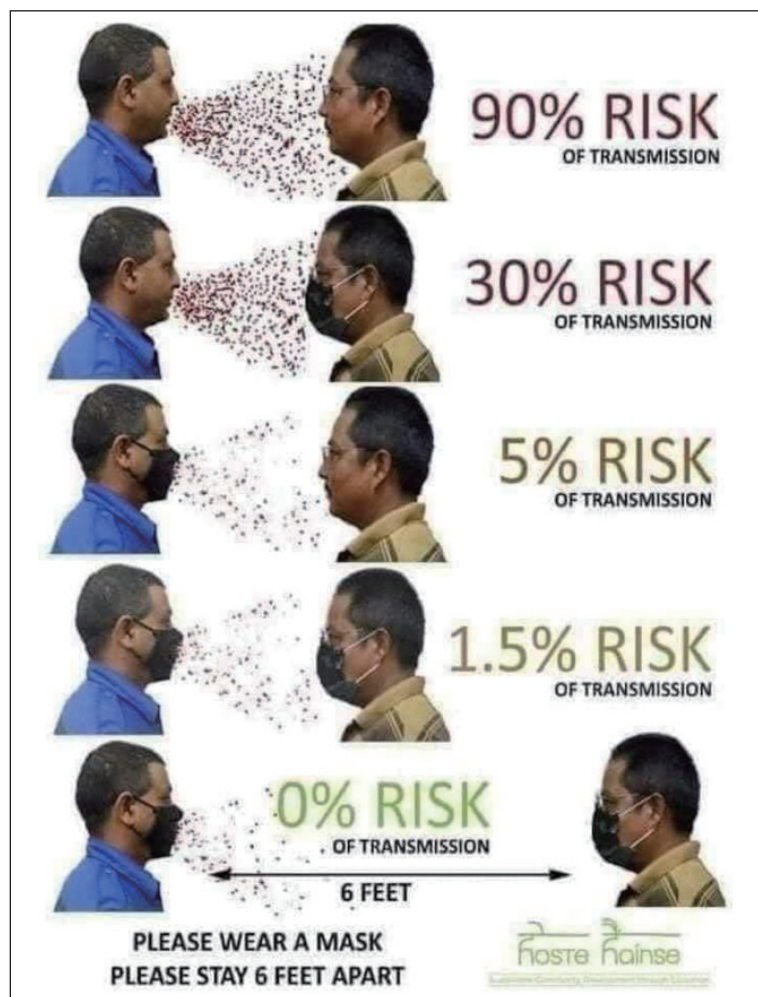
毎日コロナの話題で大変な世の中ですが、もっともっと長生きできるように、がん検診はしっかり受けて、これからも家族や沢

田内科のスタッフ、先生に助けをもらいながら、協力し合いながら、心が病まない程度に頑張ります！元気しか取り柄のない私ですが、皆さん、これからもどうぞよろしくお願い致します。

感染症と向き合う (澤田美彦)

新型コロナウイルスは「正しく恐れる」のだとマスメディアは言います。正しく恐れるってどういように恐れるのでしょうか？今の状況を見ていると、とても正しく恐れる状況にはほど遠いような気がします。しかし、今の新型コロナウイルス感染症がすぐに収まるとは思えません。みんなで、このコロナウイルスがどんなウイルスなのかを理解して暮らしていくことが必要だと思います。そして、私たち医療者はこれを一般の人たちに知ってもらうようにする役割を担っているのだと思っています。

新型コロナウイルスは私たちにとってはこれまで出会ったことがないウイルスですので、どのように対処したらいいのかわかりません。しかし、私たちは全く



みんながマスクをすることで感染のリスクを減らすことができます。マスクをして6フィート（約2メートル）離れることでさらに危険を減らすことができます。

Hoste Hainse のFacebookより転載

の素人ではありません。ウイルスのことや公衆衛生的な対応の仕方が全く分からないわけではありません。私は血液疾患を専門にしていたので、青森県で第1例目のエイズ患者さんの治療にあたりました。平成21年の新型インフルエンザ対策にもあたりました。その中で学んだことは、情報を鵜呑みにするのではなく、自分たちの状況を考えながら対応するということです。

10月に弘前市内の小中学校の先生方を対象にコロナウイルスについての研修会を行いました。その中で強調したのは、学校の中ではこうして下さいという具体的な対応策は示しませんということでした。ウイルスとはどういうものか、一般的に感染症に対処するにはどうするのか、それを踏まえてそれぞれの立場で考えて対処して下さいということでした。弘前市内には児童生徒の数が10人にも満たない学校から400人近い学校までさまざまな規模の学校があります。それぞれの学校で同じ対応をしても現実的ではないことがたくさんあります。よく考えて対応してできるだけ活動が制限されることがないようにする必要があると思ったからです。

これまでの知識や経験を基にして対応し、失敗しながら先に進んで行くことで対応策が次第に明らかになることを私たちは知っています。沢田内科医院では新型コロナウイルスに感染した患者さんが入院するという貴重な経験をしました。この状況にどのように対処したかを医療関係者だけでなく一般の人たちとも共有することが重要だと思いますので積極的に公表しています。

新型コロナウイルスは他のウイルスと同じように私たちの生活の中に存在し続けるとしています。パパはコロナウイルスの患者さんに関わっているし、おじいちゃんも医師会でコロナウイルス対策にあたっている。こんな状況では、孫たちは家で遊んでいるしかありません。保育園のスタッフがいかに理解してくれても、通園している子どもたちの保護者全員が理解してくれなければどうにもなりません。ワイドショー的な情報に振り回されないで正しい知識を持って正しく恐れて暮らしたいと思います。